

事例 8

～環境・エネルギー貸付を活用した事業化事例～

秩父寺沢川小水力発電事業

■事業及び発電設備の概要

秩父市荒川日野寺沢の中流部（標高 467m 地点）から、毎秒 70 リットル程度の水をパイプで 750m 下流の発電所（標高 380m）まで導水して落差約 87m、発電出力 49kW を得る計画である。

令和 2 年 5 月着工、令和 3 年 2 月末竣工式の予定である。発電した電気は固定価格買取制度（FIT）により東京電力に全量売電され、秩父新電力が特定卸供給先として、その電力を購入し、地元の需要家に供給する。

本事業の主体は、地域住民を中心とした出資による事業会社「陽野ふるさと電力（株）」が行い、その設備建設、電気工事等については、地元の建設会社や電気工事業者が施工する。

資本金（5 百万円）は、市民共同出資（秩父市民 19 人と東京都民 6 人が各 20 万円ずつ出資）により調達。総事業費（7 千万円）のうち、埼玉縣信用金庫と株式会社日本政策金融公庫が、半分ずつ融資することになった。

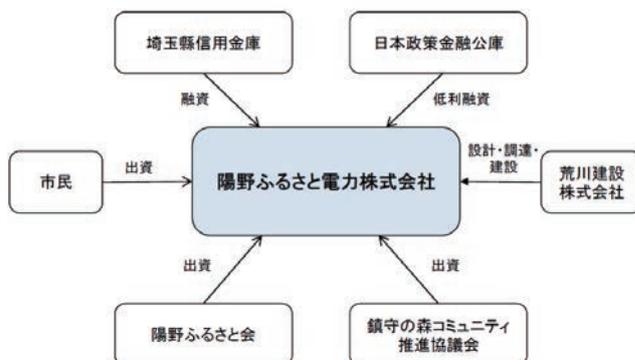
■事業の経緯

陽野ふるさと電力株式会社は、平成 31 年 1 月に、地元のボランティア団体「陽野ふるさと会」と東京都の「鎮守の森コミュニティ推進協議会」が設立した会社である。「陽野ふるさと会」は、里山の再生や地域との交流事業を長期にわたり続けてきたが、最近会員の高齢化と実働要員の減少が進む一方、事業の必要性が増大する中で、このまま推移が続くと、安定して継続できる活動は困難であるとの危機感を持った。後継者の育成のためにはさらなる魅力ある地域づくりをしなければならぬと考え、種々模索する中で、地域の特性を活かし、環境にやさしい小水力発電事業に取り組み、これを後世に引き継ぐ財産の一つとする決意に至った。

■地域貢献の内容

同発電事業において 4 名の新規雇用（社長、プロジェクトマネージャー、会計事務、保守点検業務）を創出。この電力事業で得た収益の一部は、陽野ふるさと会で現在定例的に活動している里山の植樹や鹿・イノシシ等の食害対策などの環境保護整備の資金として、また、観光のための案内所、遊歩道、ベンチなどの設置整備などの資金として充当する。

■事業の実施体制



水圧管



里山整備の様子

■利用した施策と内容

- 1) 「環境・エネルギー対策資金（非化石エネルギー設備関連）」
- 2) 資源エネルギー庁「再エネコンシェルジュ事業」

■施策を利用したことによる事業の成果

- 1) 本プロジェクトにおいて埼玉縣信用金庫と株式会社日本政策金融公庫の協調融資が実現することになり、事業の採算性を確保できる見通しがついた。
- 2) 再エネコンシェルジュ事業において、事業の進め方、地元対策、水利権の確保方法、レイアウト、地元の土木建設会社・水車メーカー等との交渉・活用法、事業性改善策等の様々なレベルの助言・指導を受けた。

■問い合わせ先

陽野ふるさと電力株式会社

住所：埼玉県秩父市荒川日野 1188 番地

URL：<https://furusato-e.com/>